

【重点 1-2】地域における健康・療養支援体制の強化に向けた取組み

重点政策・重点事業などの必要性について「看護の日」キャラクター「かんごちゃん」からの質問に、分かりやすく回答します。



どうして今「地域における健康・療養支援体制の強化」を進めているの？

人生100年時代を迎え、2040年ごろには、高齢者人口がピークとなり、また、それを支える現役世代（担い手）が急激に減少し、少子高齢化が一層進行します。このような中、高齢者だけでなく、子どもを産み育てる人たち、子どもたち、現役世代、障がいのある人たちなどを含む全ての人々が安心して暮らすことができる社会保障の実現が必要です。そのためにも、年齢に限らず生き生きと活躍できるように、予防・健康づくりを強化し、健康寿命を延ばす取り組みが必要であり、国も施策として掲げ、その一つとして疾病予防・重症化予防を挙げています。

重症化予防では、未治療の人を早期に適切な医療につなげ、必要な治療や療養生活が継続できるようにすることが必要です。また、急激な病状悪化による再入院防止も重要です。しかし、2040年ごろには、独居の高齢者や高齢者夫婦の世帯が増加し、さらに就職氷河期を経て高齢者となった団塊世代ジュニアの生活困窮化が懸念され、このような人々が、重症化することが予測されます。

「地域における健康・療養支援体制の強化」の事業では、今後の社会の変化と予測される健康課題を見据えて、全ての人々が疾病や障

がいがあっても安心して、そして生き生きと生活できるよう、先手を打って進めています。

高齢化がさらに進む2040年、人々が生き生き暮らせるように、重症化予防が大事で、今から準備が必要なんだね。



日本看護協会は何んことをやっているの？

療養の場の中心が病院から住み慣れた地域に移行してきていることや、そもそも一度も医療につながっていない人や治療を中断している人がいることから、病院での療養支援に加え、地域のより身近でつながりやすい場での看護の支援が必要です。

日本看護協会は、重症化予防に着目し、病院だけでなく、地域の身近な場で、看護の力を発揮して健康・療養支援を行える看護活動の体制を検討しています。昨年より病院、診療所、分娩取扱施設の産科外来、訪問看護事業所、NPO法人、企業などで行われている重症化予防に関する看護活動について、ヒアリングなどで情報収集を行い、支援の対象や内容、成果や課題のほか、看護提供体制などを整理しています。これらの結果から、地域において看護の力を発揮した重症化予防の取り組みが持続可能でより成果の出る仕組みについて、検討しています。

重症化しないように看護の力が発揮できる仕組みづくりをしているんだね。



重症化予防は今もやっているよ。私たち看護職はこれからどんなことをすればいいの？

看護職はこれまで、病院外来などでセルフケア能力の向上や生活習慣の改善のためのアプローチ、療養環境の調整など重症化予防を行ってきました。これからは、病院に受診する人だけでなく、健康無関心層や医療につながっていない人、治療中断している人、社会的、心理的背景でセルフケアが難しい人が地域にいることに視点を向けましょう。例えば、患者や利用者だけでなくその家族などにも目を向け、そして暮らしの身近な場において、看護の力を発揮する活動が求められます。このような場では、顕在化している身体所見だけでなく、「何か困っていることはないか」、対象者の暮らし（季節による食事・運動の変化、家族構成や経済状況の変化、新型コロナウイルス感染拡大など社会状況に伴う生活の変化）に耳を傾け、潜在的な健康課題を含めて患者と共有し、価値感を大事にした療養プランと一緒に考えたり、精神的フォローなど、伴走型で支援をしていくことが求められます。さらに、必要な医療・介護・福祉の資源をつなげ、看護職が所属を越えて一体となり重層的に支援をしていくことも必要です。

これからは病院に受診する患者だけでなく、そもそも医療につながっていない人などが地域にいるという視点が大事だね。